米軍関係者による酒気帯び運転に関する横田基地コメント

今秋の初頭に起きたインシデントをうけ、基地の各リーダーは、空兵に対してプライベートと仕事の両面において安全への留意を呼びかけるとともに、自身の任務、基地に勤める接受国のパートナーおよび周辺地域を尊重する事の重要性を強調しました。第 374 空輸航空団のリーダー一同は、機会がある毎にラジオを通じ、また一人一人に対し直接、安全について語りました。加えて、クリスマス休暇直前にも、各リーダーから空兵全員に対し各々の責任についてメッセージを送る予定です。更に、第 374 空輸航空団安全部が、基地の主要交差点の縁石付近に事故車を展示し、アルコールを摂取して車両を運転する事のないよう注意を喚起しています。最後に、以前に我々からのステートメントで空輸航空団と空軍が飲酒運転に対してどのような立場を取り、空兵に対してどのような教育を行っているかをお伝えしたところですが、それは現在も変わっておりません。

【参考】以前（令和元年 10 月 9 日）の横田基地コメント

横田基地の各リーダーは、基地に所属する空軍兵およびその家族に積極的に関わり、将来的に起こりうるインシデントを予防するべく、あらゆる機会を通して彼らを教育しています。横田基地は酒気帯び運転を重大に受け止めています。全ての人員は、横田基地に到着後直ちに、日本の防衛における彼らの重要な役割や地域の住民との大事な関係についてのみならず、安全の重要性と、米国空軍を代表する者として一人一人に何が期待されるか教育されます。彼らは、ライト・スタート（基地に赴任したばかりの空軍兵に対して行うオリエンテーション）、FTAC（ファースト・ターム・エアマン・コース：全ての初等空兵に義務付けられた訓練。軍人としての心得から軍の規律に至るまで多岐に渡った教育プログラム）、群および中隊の司令官が招集する集会において、節度を守った飲酒についてブリーフィングを受ける他、長期休暇前には安全に関するブリーフィングを受けます。これらのブリーフィングでは、計画を立て、賢明な判断をする重要性を強調するとともに、酒気帯び運転等の行為が重大な結果を招く事を、全ての人員が肝に銘じる重要性を強調します。空軍においては、長年、飲酒運転を絶対に許さない方針を貫いて来ました。法律を破った者に対しては、厳しい懲戒処分が与えられます。